

■全高書研公開用 事例②（書道 I） Ver. 3

	するために必要な技能を身に付け、表している。	
--	------------------------	--

(改善等通知 別紙5 P.3、4)

4 書道 I の目標と評価の観点及びその趣旨

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のように育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
目標	書の表現の方法や形式, 多様性などについて幅広く理解するとともに, 書写能力の向上を図り, 書の伝統に基づき, 効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書によさや美しさを感じ, 意図に基づいて構想し表現を工夫したり, 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え, 書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み, 生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに, 感性を高め, 書の伝統と文化に親しみ, 書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(高等学校学習指導要領 P.157)

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・書の表現の方法や形式, 書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに, 書の伝統に基づき, 作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け, 表している。	書によさや美しさを感じ, 意図に基づいて構想し表現を工夫したり, 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え, 書的美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.86 を参考に作成

5 内容のまとまりにおける単元構成

「B鑑賞」(1)「鑑賞」総時間数 **8時間** (鑑賞領域のみでの単元の授業時数)

単元① 鑑賞① (手書き文字と活字)

全4時間

単元② 鑑賞② (地域の碑の鑑賞)

全4時間 【本単元】

6 単元の目標

※ここでは学習指導要領の内容を本単元の学習に即した内容に置き換えたり、複数項目を1項目にまとめたりして作成した単元の目標の例を示した。また、「思考・判断・表現」については、複数項目の評価場面をそれぞれ設定し、複数項目で作成した単元の目標を示した。(『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）p53～55 参照)

(1) 「知識及び技能」

- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。

(2) 「思考力, 判断力, 表現力等」

■全高書研公開用 事例②（書道 I） Ver. 3

- ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。
- ・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。

(3)「学びに向かう力, 人間性等」

- ・地域の碑の鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

7 内容のまとめりごとの評価規準

「B鑑賞」(1)鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・線質, 字形, 構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ・漢字の書体の変遷, 仮名の成立等について理解している。 ・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 ・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 	<p>主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料「高等学校芸術（書道）P.88」を参考に作成

8 単元の評価規準

※ここでは、「知識・技能」については、学習指導要領の内容を本単元の学習に即した内容に置き換えたり、複数項目を1項目にまとめたりして作成した単元の目標に対応して作成した単元の評価規準の例を示した。また、「思考・判断・表現」については、複数項目の評価場面をそれぞれ設定し、複数項目で作成した単元の評価規準を示した。（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料「高等学校芸術（書道）p53～55」参照）

(1)知識・技能

- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。

(2)思考・判断・表現

- ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。
- ・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。

(3)主体的に学習に取り組む態度


- ・書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、地域の碑の鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。

9 指導と評価の計画

- ・年間授業時数・70 時間 ・「B鑑賞」・・・8 時間（鑑賞領域のみでの単元の授業時数）
- ・本単元の配当時間・・・ 4 時間

（1）単元の指導と評価の計画（概要） ※2 時間連続の授業として設定している

単元	時間	学習活動	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
			知	思	思	態
「鑑賞②」	全4時間（本時）	本単元の見通し				
		観点の確認①（鑑賞の方法や形態）				
		鑑賞①（直感的鑑賞）				
		観点の確認②（時代や背景、内容や形式等と地域との関わり等）	◎			
		意見交換①				
		鑑賞②（碑の鑑賞）				◎
		自己評価①			◎	
		観点の確認③（線質、字形、構成等の要素）				
		意見交換②	●	●	●	●
		発表会			●	●
		自己評価②			●	●
		単元の学習のまとめ				●
		◎指導に生かす評価		◎	◎	◎
●記録に残す評価		●	●	●		

※「」は評価場面の連続性を示す。

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.58 を参考に作成

(2) 本單元における観点別学習状況の評価方法

※ここでは○「おおむね満足できる」状況(B)、◎「十分満足できる」状況(A)、◆「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立てを示しているが、これはあくまでも例であり、必ずしもこの評価方法で評価しなくてはならないわけではなく、評価方法については、授業内容や授業展開、生徒の学習状況等を考慮して各都道府県の様式に従って作成することになる。

評価の観点と単元の評価規準		○「おおむね満足できる」状況(B)の例 ◎「十分満足できる」状況(A)の例 ◆「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立て
知識・技能	知	<ul style="list-style-type: none"> ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。 <p>○表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を生かし、線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について、おおむね理解している。</p> <p>◎表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を生かし、線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について、相互鑑賞・意見交換したり言語化したりする活動を通して実感的に感受し、理解している。</p> <p>◆書体の変遷や書風の変化、書の伝統的な鑑賞の方法等についてICTを活用して具体例を示すなどして、線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について実感的に感受し、理解できるよう支援する。</p>
思考・判断・表現	思	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。 <p>○作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉え、おおむね自身の考えを適切な用語を用いて言語化している。</p> <p>◎作品の価値とその根拠について自らの生活と関わらせて考え、書の高さや美しさを深く味わって捉え、自身の考えを適切な用語を用いて言語化している。</p> <p>◆意見交換で他者の感じ方や捉え方、考え方を参考にしたり、これまでに学習・習得した知識や技能と関連させたりするよう促し、書の高さや美しさを捉える活動に取り組めるよう支援する。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会における書の効用について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。 <p>○生活や社会における書の効用について考え、書の高さや美しさを味わって捉え、おおむね自身の考えを適切な用語を用いて言語化している。</p> <p>◎生活や社会における書の効用について自らの生活と関わらせて考え、書の高さや美しさを深く味わって捉え、自身の考えを適切な用語を用いて言語化している。</p> <p>◆生活や社会の中で書がどのように生かされているかを振り返らせ、ICTを活用して生活や社会で書が生かされている具体例を示すなどして書の高さや美しさを味わい捉える活動に取り組めるよう支援する。</p>
主体的に学習に取り組む	態	<ul style="list-style-type: none"> ・書の高さや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、地域の碑の鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 <p>○書の高さや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、地域の碑の鑑賞の学習活動に、主体的に粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>◎書の高さや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、地域の碑の鑑賞の学習活動に、計画的に自らの学習を振り返り、適切に調整を重ねて主体的に粘り強く取り組むとともに、生活や社会との関わりや自身の人生</p>

■全高書研公開用 事例②（書道Ⅰ）Ver. 3

む 態 度		<p>とも関わらせて幅広い視野から書を捉えて深く考えようとしている。</p> <p>◆自身の取組の経緯、相互鑑賞・意見交換での他者との感じ方や捉え方、考え方の交流を振り返らせ、主体的に鑑賞の学習活動に臨みたいと思えるように支援する。</p>
-------------	--	--

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P. 61～63 を参考に作成

(3) 観点ごとの実現状況等を見取る（見取ることができる）方法（評価対象と学習活動）

※ここでは観点ごとの実現状況等を見取る（見取ることができる）方法を示しているが、これはあくまでも例であり、必ずしもこの通りの方法で見取らなくてはならないわけではなく、授業内容や授業展開、生徒の学習状況等を考慮して授業者が決めることになる。

ア「知識・技能」

（ア）知識

（評価対象）ワークシート

（学習活動）「観点の確認」「鑑賞」「意見交換」「自己評価」「単元の学習のまとめ」

イ「思考・判断・表現」

（評価対象）ワークシート

（学習活動）「観点の確認」「意見交換」「自己評価」「単元の学習のまとめ」

ウ「主体的に学習に取り組む態度」

（評価対象）ワークシート、活動の様子、ICT成果物

（学習活動）「本単元の見通し」「観点の確認」「鑑賞」「意見交換」「自己評価」「発表会」「単元の学習のまとめ」

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P. 56、57 および P. 59、60 を参考に作成

（4）本時（本単元）における学習過程と評価の方法の具体

※ここでは学習計画（例）の指導上の留意点に生徒への支援例を示しているが、あくまでも例であり、必ずしもこの通り記述しなければならないわけではなく、授業内容や授業展開、生徒の学習状況等を考慮して必要な支援を記述することになる。また、この事例は、1つの単元全体を示した例である。

※本事例では評価の方法に「観」や「ワ」のみの記述で●や◎を付さない箇所があるが、これはその学習活動に関連する評価場面として付したもので、必ずしも評価しなければならないわけではなく、実際に学習計画を作成する場合、「観」や「ワ」の記述や、●や◎の観点や評価については、授業内容や授業展開、生徒の学習状況等を考慮して授業者が決めることになる。

※本事例では参考としてaとb2類の学習計画を示したが、必ずしもこのどちらかで記述しなければならないわけではない。

a 単元② 鑑賞②「地域の碑の鑑賞」（全4時間）の学習計画

活動の流れ	時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点 「・」指導上の留意点 「◆」支援内容	評価の方法		
				◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価 「観」活動の様子 「ワ」ワークシート 「作」作品 「I」ICT成果物		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
			知	思	態	
単元② 導入	15分	○本単元の見通し ・本単元の流れを確認し、本単元で身に付けたい目標や課題など、自身の学習の見通しについて考え、タブレットで「学びの記録」の「鑑賞学習に向けて」に記録する。	・本単元の流れ及び学習活動について、パワーポイントで示しながら確認させ、生徒が単元の見通しをもって学習活動に取り組むことができるように支援する。 (ICTの活用)			ワ
		○観点の確認① ◎書の鑑賞の方法や形態 ・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について新たに得た知識・観点を踏まえて、生活や社会において文字が刻まれてきた意味について考え、ワークシートに記入する。	・生徒の軸作品の他、拓本、複製本、画像等を効果的に活用して地域の碑を生活や社会における多様な文字文化の広がり観点から実感的に理解できるよう働きかける。(ICTの活用)	ワ		観
		○鑑賞①（直感的鑑賞） ・地域の複数の碑を画像等で鑑賞し、直感的に感受した作品（碑）のよさや美しさ、その印象（表現効果）をもたらす根拠について考えたことをタブレットに入力して意見交換し、自身の考え及び意見交換での他者の意見をタブレット	・画像で作品例を示し、既習の古典や、線質、字形、構成等異なる近代の書を比較して考えるよう働きかける。(ICTの活用) ◆近代の書の画像を利用して表現効果とその根拠を紹介し、直感的に捉えた作品	ワ		ワ

■全高書研公開用 事例②（書道Ⅰ）Ver. 3

		で「学びの記録」の「鑑賞①」に記録する。 (グループまたはクラス全体)	(碑)の第一印象(表現効果)をもたらす根拠について、それぞれに感じ方や捉え方、考え方を働かせて考えることができるよう支援する。(ICTの活用)			
展 開 1	35 分	○観点の確認② ◎作品が書かれた(碑が建立された)時代や背景、内容や形式等と地域との関わり等 ・作品(碑)の鑑賞において、作品が書かれた(碑が建立された)時代や背景、内容や形式等、地域との関わり等について理解し、書が生活や社会において文字が刻まれてきた意味について考え、適切な用語を用いて言語化し、タブレットで「学びの記録」の「作品(碑)と地域との関わり①」に記入する。	・各時代の思潮や文化的背景の相違によって書体の変遷し、書風もまた変化を遂げてきたことについて、各時代の作品や碑の画像を紹介するなどして日本の文字と書の伝統と文化についても理解が深まるよう働きかける。(ICTの活用) ・日本三古碑や教科書に掲載されている石碑を画像で示すなどして時代や背景、碑の内容や形式と地域との関わりや、書が時や時代を超えて継承され、生活や社会の歴史と伝統をその「時間性」をもって後世に伝えることで、文化を形づくってきたこと等について説明し、書が生活や社会において文字が刻まれてきたこと等について考えることができるよう働きかける。(ICTの活用)	ワ ◎	ワ	ワ
		○意見交換① ・課題(※1)として鑑賞・調査した碑について、新たに得た知識・観点を踏まえて時代や背景、内容や形式等と地域との関わり等の必要性について考えたことを話し合い、他者の感じ方や捉え方、考え方から感じ取り、観点の確認②で考えた自身の考えを改めて見直し、見直した自身の考えをタブレットで「学びの記録」の「作品(碑)と地域との関わり②」に記録する。(グループ)	・時代や背景、内容や形式等と地域との関わり等の必要性を再度確認させ、観点の確認を踏まえて、地域との関わり等を洞察することを通して、作品(碑)のよさや美しさを味わえるよう働きかける。		ワ	観
展 開 2	50 分	○鑑賞②(碑の鑑賞) ・課題とした地域の碑を鑑賞し、画像を記録(または拓本	・実際に鑑賞して感じた作品(碑)のよさや美しさと、	ワ		ワ ◎

		<p>採取）したり調査したりしたことや、実際に鑑賞してわかったこと、感じたこと等について話し合った結果を、タブレットで碑または拓本の写真データとともに「学びの記録」の「調査結果」に記録する。 （グループまたはクラス全体）</p>	<p>鑑賞①での直感的鑑賞とを比較するなどして、作品の価値を分析的に捉えられるよう働きかける。</p> <p>◆地域の資料等を示して、作品が書かれた（碑が建立された）時代や背景、内容や形式等と地域との関わり等について理解が深まるよう支援する。</p>			
		<p>○自己評価①</p> <p>・本時の学習を振り返り、自身の調査内容を見直すとともに、作品（碑）が持つ書のよさや美しさを感じ取り、捉え考えたことについて適切に言語化し、ワークシートに記入する。</p>	<p>・本時で学習・習得した知識・観点を踏まえて自身の学習活動を振り返り、次時以降の学習への見通しに繋がられるよう働きかける。</p> <p>◆本時で学習・習得した知識・観点を確認し、本時の学習活動の場面を示して、自身の学習活動を適切に振り返るとともに、鑑賞した作品（碑）が持つ書のよさや美しさについて感じたことなどを適切に言語化することができるよう支援する。</p>	ワ	ワ ◎	ワ
展 開 3	50分	<p>○観点の確認③</p> <p>◎線質、字形、構成等の要素</p> <p>・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解し、新たに得た知識・観点に加え、これまで調査してきたことを踏まえて改めて地域の碑を鑑賞し、感じたことを適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。</p>	<p>・様々な質感を有する線質に関わる特性や文字の造形的な美しさ、作品全体から滲み出る様々な趣や味わい等について、画像等を活用して理解が深まるよう働きかける。 （ICTの活用）</p>	ワ		観
		<p>○意見交換②</p> <p>・観点の確認③で考えたことをもとに、既習の知識・観点を踏まえて作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさや日本の文字と書の伝統と文化について話し合うとともに、地域の碑について分かったことや感じたこと等をまとめ、適切な用語を用いて言語化してワークシートに記</p>	<p>・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりに関する知識・観点を踏まえて作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさや日本の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態を理解するとともに、作品が書かれた（碑が建立された）時</p>	ワ ●	ワ	I

		<p>入するとともに、タブレットを利用して発表資料をまとめる。 （個人及びグループ）</p>	<p>代や背景、内容や形式、地域との関わり等、表現効果と風趣との関わりを地域の資料やタブレット等で検索するなどして発表資料をまとめるよう働きかける。</p> <p>◆調査内容が不十分であったり、タブレット等で検索できない場合は、事前に準備した地元の資料等を参照させたりするなどして発表資料をまとめることができるよう支援する。 （ICTの活用）</p> <p>・発表に当たり、声量や文章構成、資料の活用、根拠を示すなど、分かりやすく伝える方法などについて、事例を示すなどして発表方法を工夫するよう働きかける。 （ICTの活用）</p>			
展 開 4	35 分	<p>○発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで作成した資料を示して調査結果をもとに表現効果や風趣との関わりについてグループで考えたことを発表する。（グループ） ・鑑賞者は各グループの発表を共有して意見交換し、他者の発表を通して自身にはなかった感じ方や捉え方、考え方から感じ取り、作品の価値とその根拠について考えたり、書の上さや美しさを味わって捉えたりしたことを適切に言語化してワークシートに記入する。（クラス全体） 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者は、分かりやすい発表内容や方法を工夫して発表してその結果を自己評価し、鑑賞者は、声量や文章構成、資料の活用、根拠に基づいた適切な発表内容であるかを評価するよう働きかける。 ・他者の発表の様子や発表内容を共有して自身の発表を振り返り、意見交換したことをワークシートに記入するよう伝え、他者の発表から、自身にはなかった感じ方や捉え方、考え方を認め合うことの大切さに気付くことができるよう働きかける。 （ICTの活用） 		ワ ●	
ま と め	15 分	<p>○自己評価②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共有された意見を通して他者の発表や作品に対する感じ方や捉え方、考え方に触れるとともに、各グループの発表を共有して自身の発表を振り返り、自身が思考を積み重ねてきた過程、身に付けた知識・観点を改めて確認し、鑑賞の 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会でのICTを活用して集約された意見をもとに、自身とは異なる他者の感じ方や捉え方、考え方を認め合い、自身の感じ方や捉え方、考え方を振り返ったり、修正したりするとともに、本時の学習活動を振 	ワ	ワ ●	ワ

	<p>学習活動に対する自己評価を「本単元の見直し」で考えた目標や課題に照らして行うとともに、生活や社会における書の効用や地域の書の意味や価値について考え、適切に言語化してワークシートに記入する。</p>	<p>り返り、生活や社会における書の効用や地域の書の意味や価値について根拠を持って考えるよう働きかける。</p>			
	<p>○単元の学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本単元の学習を振り返り、鑑賞での学習内容、その中で併せて学習してきた〔共通事項〕の学習内容について改めて確認して理解を深める。また、地域の書の鑑賞を通して、作品（碑）が建立された経緯や場所を踏まえてその意味や効果について考えさせるとともに、作品や書の意味や価値、今後の生活や表現活動にどのように生かすことができるか等について主体的に考え、適切に言語化してワークシートに記入するとともに、タブレットで「学びの記録」の「鑑賞学習の振り返り」に記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元で学習・習得した「書の鑑賞の方法や形態（観点の確認①）」、「作品が書かれた時代や背景、内容や形式等と地域との関わり等（観点の確認②）」、「線質、字形、構成等の要素、表現効果や風趣との関わり（観点の確認③）」の観点を再度示し、鑑賞の学習活動の中で常に働かせ、他者との交流を通して鍛え、広げてきた感じ方や捉え方、考え方について、その働きと自身の感じ方や捉え方、考え方の成長を実感し、今後の生活の中でいかに活用するのか考えられるよう働きかける。 （ICTの活用） ・鑑賞の活動に取り組む学習を通して身に付けてきた資質・能力を、書の伝統と文化に親しみ尊重していくことや、心豊かな生活や社会を創造していくことに生かしていくこと、また、表現と鑑賞との関わりの重要性等について主体的に向き合い考えられるよう働きかける。 	<p>ワ</p>	<p>ワ</p>	<p>ワ</p> <p>●</p>
<p>◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価</p>			<p>◎ ●</p>	<p>◎ ●</p>	<p>◎ ●</p>
<p>【評価の方法の具体】</p> <p>知 ◎：＜観点の確認②＞生活や社会において文字が刻まれてきた意味について考える中で、既得の知識・観点と本時の学習の中で習得した知識・観点（日本の文字と書の伝統と文化）、併せて学習してきた〔共通事項〕の内容（「時間性」）を理解し、活用して、適切な用語を用いて言語化している状況を、ワークシートの「観点の確認②」記述内容から見取り、ワークシートにアドバイスを記入し、良い例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口</p>					

頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。

※ここでは、単元の目標及び評価規準、評価方法の内の1項目である「日本の文字と書の伝統と文化について」のみを評価している。

- 知 ●**：＜意見交換②＞意見交換を通して、既得の知識・観点と本時の学習の中で習得した知識・観点（線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態）、併せて学習してきた〔共通事項〕の内容（書を構成する要素と表現効果や風趣との関わり）について理解し、活用して、適切な用語を用いて言語化している状況を、活動状況及びワークシートの「意見交換②」の記述内容から見取り、記録に残す。
- 思 ◎**：＜自己評価①＞本時の自身の学習活動を振り返る活動を通して、見方・考え方を働かせ、既得の知識・観点や〔共通事項〕を活用したり他者の感じ方や捉え方、考え方に触れたりしながら書のよさや美しさを味わって捉え、広げた自身の考えを適切な用語を用いて言語化している状況を、ワークシートの「自己評価①」の記述内容から見取り、ワークシートにアドバイスを記入し、良い例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。
- 思 ●**：＜意見交換②＞＜発表会＞意見交換で話し合ったことをまとめたり、発表会で他者の発表内容を共有したりする活動を通して、作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉え、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりしている状況を、ワークシートの「意見交換」「発表会」の記述内容及びICT成果物の内容から見取り、記録に残す。
- 思 ●**：＜自己評価②＞本時の自身の学習活動を振り返る活動を通して、見方・考え方を働かせ、既得の知識・観点や〔共通事項〕を活用したり他者の感じ方や捉え方、考え方に触れたりしながら自身の発表を振り返り、作品の価値に対する自身の考えを、根拠を示して修正するとともに、書のよさや美しさを味わって捉え、広げた自身の考えを適切な用語を用いて言語化している状況を、ワークシートの「自己評価②」の記述内容から見取り、記録に残す。
- 態 ◎**：＜鑑賞②＞地域の碑を鑑賞する活動を通して、碑の価値やその根拠について分析的に捉え、書のよさや美しさを味わって捉え、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強く取り組もうとしているか、その中で自らの学習を調整しようとしているかの両側面から、主体的に学習に取り組もうとしている状況を、活動状況及び「学びの記録」の「調査結果」の記述内容から見取り、タブレットで「学びの記録」にアドバイスを記録し、良いグループの活動例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。
- 態 ●**：＜単元の学習のまとめ＞単元の学習の振り返りをする活動を通して、見方・考え方を働かせ、既得の知識・観点や〔共通事項〕を活用したり他者の感じ方や捉え方、考え方に触れたりしながら書のよさや美しさを味わって捉え、作品や書の意味や価値、書の伝統と文化や表現と鑑賞との関わり、生活や社会における書の効用について、広げた自身の考えを適切な用語を用いて言語化している状況を、ワークシートの「単元の学習のまとめ」及び「学びの記録」の記述内容から見取り、記録に残す。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校芸術（書道）P. 47～48、P. 59～61、P. 64～76 を参考に作成

■全高書研公開用 事例②（書道Ⅰ）Ver. 3

※1 本単元を実施するにあたり、生徒は単元の実施前に地域の石碑を確認し、調査を担当する碑を決めて、事前の課題として休日や放課後等を利用して担当する碑の鑑賞・調査の活動を行っている。

b 単元② 鑑賞②「地域の碑の鑑賞」（全4時間）の学習計画

活動の流れ	時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点 「・」指導上の留意点 「◆」支援内容	評価の方法			評価の方法の具体
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				知	思	態	
全4時間	導入 15分	○本単元の見通し ・本単元の流れを確認し、本単元で身に付けたい目標や課題など、自身の学習の見通しについて考え、タブレットで「学びの記録」の「鑑賞学習に向けて」に記録する。	・本単元の流れ及び学習活動について、パワーポイントで示しながら確認させ、生徒が単元の見通しをもって学習活動に取り組むことができるように支援する。 (ICTの活用)			ワ	
		○観点の確認① ◎書の鑑賞の方法や形態 ・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について新たに得た知識・観点を踏まえて、生活や社会において文字が刻まれてきた意味について考え、ワークシートに記入する。	・生徒の軸作品の他、拓本、複製本、画像等を効果的に活用して地域の碑を生活や社会における多様な文字文化の広がり観点から実感的に理解できるよう働きかける。 (ICTの活用)	ワ		観	
		○鑑賞①（直感的鑑賞） ・地域の複数の碑を画像等で鑑賞し、直感的に感受した作品（碑）のよさや美しさ、その印象（表現効果）をもたらす根拠について考えたことを意見交換し、自	・画像で作品例を示し、既習の古典や、線質、字形、構成等が異なる近代の書を比較して考えるよう働きかける。(ICTの活用) ◆近代の書の画像を利用して表現効果とそ	ワ		ワ	

		<p>身の考え及び意見交換での他者の意見をタブレットで「学びの記録」の「鑑賞①」に記録する。 （グループまたはクラス全体）</p>	<p>の根拠を紹介し、直感的に捉えた作品（碑）の第一印象（表現効果）をもたらす根拠について、それぞれに感じ方や捉え方、考え方を働かせて考えることができるよう支援する。（ICTの活用）</p>			
展 開 1	35 分	<p>○観点の確認② ◎作品が書かれた（碑が建立された）時代や背景、内容や形式等と地域との関わり等</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品（碑）の鑑賞において、作品が書かれた（碑が建立された）時代や背景、内容や形式等、地域との関わり等について理解し、書が生活や社会において文字が刻まれてきた意味について考え、適切な用語を用いて言語化し、タブレットで「学びの記録」の「作品（碑）と地域との関わり①」に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各時代の思潮や文化的背景の相違によって書体の変遷し、書風もまた変化を遂げてきたことについて、各時代の作品や碑の画像を紹介するなどして日本の文字と書の伝統と文化についても理解が深まるよう働きかける。（ICTの活用） 日本三古碑や教科書に掲載されている石碑を画像で示すなどして時代や背景、碑の内容や形式と地域との関わりや、書が時や時代を超えて継承され、生活や社会の歴史と伝統をその「時間性」をもって後世に伝えることで、文化を形づくってきたこと等について説明し、書が生活や社会において文字が刻まれてきたこと等について考えることができるよう働きかける。（ICTの活用） 	ワ ◎	ワ	<p>知◎：</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や社会において文字が刻まれてきた意味について考える中で、既得の知識・観点と本時の学習の中で習得した知識・観点（日本の文字と書の伝統と文化）、併せて学習してきた〔共通事項〕の内容（「時間性」）を理解し、活用して、適切な用語を用いて言語化している状況を、ワークシートの「観点の確認②」記述内容から見取り、ワークシートにアドバイスを記入し、良い例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。 <p>※ここでは、単元の目標及び評価規準、評価方法の内の1項目である「日本の文字と書の伝統と文化について」</p>

		<p>○意見交換①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題（※1）として鑑賞・調査した碑について、新たに得た知識・観点を踏まえて時代や背景、内容や形式等と地域との関わり等の必要性について考えたことを話し合い、他者の感じ方や捉え方、考え方から感じ取り、観点の確認②で考えた自身の考えを改めて見直し、見直した自身の考えをタブレットで「学びの記録」の「作品（碑）と地域との関わり②」に記録する。 （グループ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・時代や背景、内容や形式等と地域との関わり等の必要性を再度確認させ、観点の確認を踏まえて、地域との関わり等を洞察することを通して、作品（碑）のよさや美しさを味わえるよう働きかける。 	ワ	観	のみを評価している。
展 開 2	50 分	<p>○鑑賞②（碑の鑑賞）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題とした地域の碑を鑑賞し、画像を記録（または拓本採取）したり調査したりしたことや、実際に鑑賞してわかったこと、感じたこと等について話し合った結果を、タブレットで碑または拓本の写真データとともに「学びの記録」の「調査結果」に記録する。 （グループまたはクラス全体） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に鑑賞して感じた作品（碑）のよさや美しさと、鑑賞①での直感的鑑賞とを比較するなどして、作品の価値を分析的に捉えられるよう働きかける。 ◆地域の資料等を示して、作品が書かれた（碑が建立された）時代や背景、内容や形式等と地域との関わり等について理解が深まるよう支援する。 	ワ	ワ ◎	<p>態◎：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の碑を鑑賞する活動を通して、碑の価値やその根拠について分析的に捉え、書のよさや美しさを味わって捉え、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強く取り組もうとしているか、その中で自らの学習を調整しようとしているかの両側面から、主体的に学習に取り組もうとしている状況を、活動状況及び「学びの記録」の「調査結果」の記述内容から見取り、タブレットで「学びの記

						録」にアドバイス を記録し、良いグ ループの活動例や 全体に見られる傾 向などについてク ラス全体に対して 例示や口頭でアド バイス・共有する などすることによ り、指導に生かす。	
		○自己評価① ・見方・考え方を働か せて本時の学習を振 り返り、自身の調査 内容を見直すととも に、作品（碑）が持 つ書のよさや美しさ を感じ取り、捉え考 えたことについて適 切に言語化し、ワー クシートに記入す る。	・本時で学習・習得し た知識・観点を踏ま えて自身の学習活動 を振り返り、次時以 降の学習への見通し に繋げられるよう働 きかける。 ◆本時で学習・習得し た知識・観点を確認 し、本時の学習活動 の場面を示して、自 身の学習活動を適切 に振り返るととも に、鑑賞した作品 （碑）が持つ書のよ さや美しさについて 感じたことなどを適 切に言語化すること ができるよう支援す る。	ワ	ワ ◎	ワ	思◎： ・本時の自身の学習 活動を振り返る活 動を通して、見方・ 考え方を働かせ、 既得の知識・観 点や〔共通事項〕を 活用したり他者の感 じ方や捉え方、考 え方に触れたりし ながら書のよさや 美しさを味わって 捉え、広げた自身 の考えを適切な用 語を用いて言語化 している状況を、 ワークシートの 「自己評価①」の 記述内容から見取 り、ワークシート にアドバイスを記 入し、良い例や全 体に見られる傾向 などについてクラ ス全体に対して例 示や口頭でアドバ イス・共有するな どすることによ り、指導に生かす。
展 開 3	50 分	○観点の確認③ ◎線質、字形、構成等 の要素 ・線質、字形、構成等 の要素と表現効果や 風趣との関わりにつ いて理解し、新たに 得た知識・観点に加 え、これまで調査し てきたことを踏まえ	・様々な質感を有する 線質に関わる特性や 文字の造形的な美し さ、作品全体から滲 み出る様々な趣や味 わい等について、画 像等を活用して理解 が深まるよう働きか ける。	ワ		観	

		て改めて地域の碑を鑑賞し、感じたことを適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。	(ICTの活用)			
		○意見交換② ・観点の確認③で考えたことをもとに、既習の知識・観点を踏まえて作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさや日本の文字と書の伝統と文化について話し合うとともに、地域の碑について分かったことや感じたこと等をまとめ、適切な用語を用いて言語化してワークシートに記入するとともに、タブレットを利用して発表資料をまとめる。 (個人及びグループ)	・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりに関する知識・観点を踏まえて作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさや日本の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態を理解するとともに、作品が書かれた(碑が建立された)時代や背景、内容や形式、地域との関わり等、表現効果と風趣との関わりを地域の資料やタブレット等で検索するなどして発表資料をまとめるよう働きかける。 ◆調査内容が不十分であったり、タブレット等で検索できない場合は、事前に準備した地元の資料等を参照させたりするなどして発表資料をまとめることができるよう支援する。 (ICTの活用) ・発表に当たり、声量や文章構成、資料の活用、根拠を示すなど、分かりやすく伝える方法などについて、事例を示すなどして発表方法を工夫するよう働きかける。(ICTの活用)	ワ ●	ワ I	知●： ・意見交換を通して、既得の知識・観点と本時の学習の中で習得した知識・観点(線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態)、併せて学習してきた〔共通事項〕の内容(書を構成する要素と表現効果や風趣との関わり)について理解し、活用して、適切な用語を用いて言語化している状況を、活動状況及びワークシートの「意見交換②」の記述内容から見取り、記録に残す。
展 35	○発表会				ワ	思●：

開分 4		<ul style="list-style-type: none"> グループで作成した資料を示して調査結果をもとに表現効果や風趣との関わりについてグループで考えたことを発表する。(グループ) 鑑賞者は各グループの発表を共有して意見交換し、他者の発表を通して自身にはなかった見方・考え方から感じ取り、作品の価値とその根拠について考えたり、書よさや美しさを味わって捉えたりしたことを適切に言語化してワークシートに記入する。(クラス全体) 	<ul style="list-style-type: none"> 発表者は、分かりやすい発表内容や方法を工夫して発表してその結果を自己評価し、鑑賞者は、声量や文章構成、資料の活用、根拠に基づいた適切な発表内容であるかを評価するよう働きかける。 他者の発表の様子や発表内容を共有して自身の発表を振り返り、意見交換したことをワークシートに記入するよう伝え、他者の発表から、自身にはなかった感じ方や捉え方、考え方を認め合うことの大切さに気付くことができるよう働きかける。(ICTの活用) 		●	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換で話し合ったことをまとめたり、発表会で他者の発表内容を共有したりする活動を通して、作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わって捉え、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりしている状況を、ワークシートの「意見交換」「発表会」の記述内容及びICT成果物の内容から見取り、記録に残す。
まとめ	15分	<p>○自己評価②</p> <ul style="list-style-type: none"> 共有された意見を通して他者の発表や作品に対する感じ方や捉え方、考え方に触れるとともに、各グループの発表を共有して自身の発表を振り返り、自身が思考を積み重ねてきた過程、身に付けた知識・観点を改めて確認し、鑑賞の学習活動に対する自己評価を「本単元の見通し」で考えた目標や課題に照らして行うとともに、生活や社会における書の効用や地域の書の意味や価値について考え、適切に言語化してワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表会でのICTを活用して集約された意見をもとに、自身とは異なる他者の感じ方や捉え方、考え方を認め合い、自身の感じ方や捉え方、考え方を振り返ったり、修正したりするとともに、本時の学習活動を振り返り、生活や社会における書の効用や地域の書の意味や価値について根拠を持って考えるよう働きかける。 	ワ	ワ ●	<p>思●：</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の自身の学習活動を振り返る活動を通して、見方・考え方を働かせ、既得の知識・観点や〔共通事項〕を活用したり他者の感じ方や捉え方、考え方に触れたりしながら自身の発表を振り返り、生活や社会における書の効用や地域の書の意味や価値に対する自身の考えを、根拠を示して修正するとともに、書よさや美しさを味わって捉え、広げた自身の考えを適切な用語を用いて言語化している状況を、ワークシートの「自

						己評価②」の記述内容から見取り、記録に残す。
	○単元の学習のまとめ ・本単元の学習を振り返り、鑑賞での学習内容、その中で併せて学習してきた〔共通事項〕の学習内容について改めて確認して理解を深める。また、地域の書の鑑賞を通して、作品（碑）が建立された経緯や場所を踏まえてその意味や効果について考えさせるとともに、作品や書の意味や価値、今後の生活や表現活動にどのように生かすことができるか等について主体的に考え、適切に言語化してワークシートに記入するとともに、タブレットで「学びの記録」の「鑑賞学習の振り返り」に記録する。	・本単元で学習・習得した「書の鑑賞の方法や形態（観点の確認①）」、「作品が書かれた時代や背景、内容や形式等と地域との関わり等（観点の確認②）」、「線質、字形、構成等の要素、表現効果や風趣との関わり（観点の確認③）」の観点を再度示し、鑑賞の学習活動の中で常に働かせ、他者との交流を通して鍛え、広げてきた感じ方や捉え方、考え方について、その働きと自身の感じ方や捉え方、考え方の成長を実感し、今後の生活の中でいかに活用するか考えられるよう働きかける。 （ICTの活用） ・鑑賞の活動に取り組む学習を通して身に付けてきた資質・能力を、書の伝統と文化に親しみ尊重していくことや、心豊かな生活や社会を創造していくことに生かしていくこと、また、表現と鑑賞との関わり的重要性等について主体的に向き合い考えられるよう働きかける。	ワ	ワ	ワ	態●： ・単元の学習の振り返りをする活動を通して、見方・考え方を働かせ、既得の知識・観点や〔共通事項〕を活用したり他者の感じ方や捉え方、考え方に触れたりしながら書のよさや美しさを味わって捉え、作品や書の意味や価値、書の伝統と文化や表現と鑑賞との関わり、生活や社会における書の効用について、広げた自身の考えを適切な用語を用いて言語化している状況を、ワークシートの「単元の学習のまとめ」及び「学びの記録」の記述内容から見取り、記録に残す。
	◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価		◎	◎	◎	

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P. 47～48、P. 59～61、P. 64～76 を参考に作成

※1 本単元を実施するにあたり、生徒は単元の実施前に地域の石碑を確認し、調査を担当する碑を

■全高書研公開用 事例②（書道Ⅰ）Ver. 3

決めて、事前の課題として休日や放課後等を利用して担当する碑の鑑賞・調査の活動を行っている。

10 年間指導計画

※ここでは指導事項を「A表現(1)」のように示すなどしているが、必ずしも本事例の通り示さなければならぬわけではなく、各都道府県等で決めた様式で示すことになる。ここでの事例1・2では異なる書式で示している。

計 70 時間（内訳：漢字仮名交じりの書 20 時間 漢字の書 32 時間 仮名の書 12 時間 鑑賞 6 時間）

※鑑賞の時間数について、「A表現」との複合的な単元の時間数は含まれていない。

期	単元 学習内容	学習のねらい 学習活動 等	時 数	知識及び技能 (知識・技能)	思考力・判断 力・表現力等 (思考・判断・表 現)	学びに向かう 力・人間性等 (主体的に学習に 取り組む態度)	
前 期	1 オリエンテーシ ョン	○中学校国語科書写から高 等学校芸術科書道への接続 について理解する。【B鑑 賞】	36	B鑑賞(1) イ(イ)	B鑑賞(1) ア(ア)、ア(イ)	B鑑賞(1)	
	2 鑑賞① (手書き文字と 活字)	○手書き文字について学習 し、活字と手書き文字の特 徴について理解を深める。 【B鑑賞】		B鑑賞(1) イ(イ)	B鑑賞(1) ア(イ)	B鑑賞(1)	
	3 漢字の書① (楷書の書風と 結構法)	○漢字の書について、楷書 の臨書や創作活動を通して 楷書の用筆・運筆と表現効 果について理解し書風に基 づく表現の技能を身に付け る。【A表現】【B鑑賞】		A表現(2) イ(ア)、イ(イ) ウ(ア)、ウ(イ)	A表現(2) ア(ア)、ア(イ)	A表現(2)	
	4 漢字の書② (楷書の書風と線 質(筆圧の変化))			B鑑賞(1) イ(ア)、イ(エ)	B鑑賞(1) ア(ア)、ア(イ)	B鑑賞(1)	
	5 漢字の書③ (楷書の書風と線 質(円筆・方筆))						
	6 漢字の書④ (楷書の創作)						
	7 仮名の書① (変体仮名)	○仮名の書の基本について 理解し、仮名の美の特徴で ある変体仮名や連綿につい て理解し仮名の表現の技能 を身に付ける。【A表現】【B 鑑賞】		A表現(3) イ(ア)	A表現(3) ア(ア)	A表現(3)	
	8 仮名の書② (単体と連綿)			ウ(ア) B鑑賞(1) イ(イ)	B鑑賞(1) ア(ア)	B鑑賞(1)	
	前 期	9 漢字仮名交じり の書① (楷書の応用)		○漢字仮名交じりの書によ る作品制作を行い、漢字と 仮名の調和等について理解 し、漢字の書及び仮名の書 で身に付けた表現の技能を 深める。 【A表現】【B鑑賞】	A表現(1) イ(イ) ウ(イ) B鑑賞(1) イ(ア)	A表現(1) ア(ア)、ア(イ) B鑑賞(1) ア(イ)	A表現(1) B鑑賞(1)
		10 漢字仮名交じり の書②		○漢字の書の行書の導入と して、漢字仮名交じりの書	A表現(1) イ(ア)	A表現(1) ア(イ)	A表現(1)

■全高書研公開用 事例②（書道Ⅰ）Ver. 3

	(筆脈と字形)	を半紙に速書きすることにより行書の特徴を理解し、行書の基本的な表現の技能を身に付ける。【A表現】【B鑑賞】	ウ(ア) B鑑賞 イ(ア)	B鑑賞 ア(イ)	B鑑賞(1)
	11 漢字の書⑤ (行書の運筆の基本と書風)	○漢字の書について、行書の臨書や創作活動を通して行書の特徴を理解し、行書の表現の技能を身に付ける。【A表現】【B鑑賞】	A表現(2) イ(ア)、イ(イ) ウ(ア)、ウ(イ)	A表現(2) ア(ア)、ア(イ)	A表現(2)
	12 漢字の書⑥ (行書の創作)	○漢字の書について、行書の臨書や創作活動を通して行書の特徴を理解し、行書の表現の技能を身に付ける。【A表現】【B鑑賞】	B鑑賞(1) イ(ア)、イ(イ) イ(エ)	B鑑賞(1) ア(ア)、ア(イ)	B鑑賞(1)
後期	13 漢字仮名交じりの書③ (漢字の書の応用)	○漢字の書の楷書と行書の学習を生かして漢字仮名交じりの書による作品制作を行い漢字と仮名の調和等について理解し、表現の技能を高める。【A表現】【B鑑賞】	A表現(1) イ(ア)、イ(イ) ウ(ア)、ウ(イ) B鑑賞(1) イ(ア)	A表現(1) ア(ア) ア(イ) B鑑賞(1) ア(ア)	A表現(1) B鑑賞(1)
	14 鑑賞② (地域の石碑鑑賞)	○地域の石碑を鑑賞して漢字と仮名の調和や日常における書の効用、日本の文字と書の伝統と文化などについて理解を深める。【B鑑賞】	B鑑賞(1) イ(ア)、イ(イ)	B鑑賞(1) ア(イ)	A表現(1)
	15 仮名の書③ (散らし書き)	○仮名の書の臨書や創作を通して、仮名の美の特徴や連綿、散らし書きへの理解を深め、仮名の書の表現の技能を身に付ける。【A表現】【B鑑賞】	A表現(3) イ(イ)、ウ(イ) B鑑賞(1) イ(ア)	A表現(3) ア(イ) B鑑賞(1) ア(ア)	A表現(3) B鑑賞(1)
	16 仮名の書④ (仮名の書の創作)	○仮名の書の臨書や創作を通して、仮名の美の特徴や連綿、散らし書きへの理解を深め、仮名の書の表現の技能を身に付ける。【A表現】【B鑑賞】	A表現(3) イ(イ)、ウ(イ) B鑑賞(1) イ(ア)	A表現(3) ア(イ) B鑑賞(1) ア(ア)	A表現(3) B鑑賞(1)
	17 漢字仮名交じりの書④ (仮名の書を応用した作品制作)	○仮名の書の学習を生かして漢字仮名交じりの書による作品を制作し、漢字と仮名の調和等について理解を深め、仮名の表現の技能を高める。【A表現】【B鑑賞】	A表現(1) イ(イ) ウ(イ) B鑑賞(1) イ(ア)	A表現(1) ア(ア)、ア(イ) B鑑賞(1) ア(イ)	A表現(1) B鑑賞(1)
	18 漢字の書⑦ (篆書の字形と筆法)	○漢字の書について、篆書の臨書を通して篆書体の字形や筆法の特徴等について理解し、篆書の表現の技能を身に付ける。 【A表現】【B鑑賞】	A表現(2) イ(イ) ウ(ア) B鑑賞(1) イ(イ)	A表現(2) ア(ア) B鑑賞(1) ア(イ)	A表現(2) B鑑賞(1)
	19 漢字の書⑧ (篆刻作品制作)	○漢字の書の篆書の学習で身に付けた字形や線質の特徴を生かして、篆刻作品を制作し篆刻による書の表現について理解を深め、篆刻の表現の技能を身に付け	A表現(2) イ(ア) ウ(イ) B鑑賞(1) イ(エ)	A表現(2) ア(イ) B鑑賞(1) ア(ア)	A表現(2) B鑑賞(1)

■全高書研公開用 事例②（書道Ⅰ）Ver. 3

後 期		る。 【A表現】【B鑑賞】			
	20 漢字仮名交じりの書⑤ (作品制作・学習のまとめ)	○書道Ⅰのまとめとして、漢字仮名交じりの書による作品制作を行い、用筆・運筆による表現効果や全体構成、漢字と仮名の調和等について理解を深め、漢字仮名交じりの書の表現の技能を高める。 【A表現】【B鑑賞】	A表現(1) イ(ア)、イ(イ) ウ(ア)、ウ(イ) B鑑賞(1) イ(ア)	A表現(1) ア(ア)、ア(イ) ア(ウ) B鑑賞(1) ア(イ)	A表現(1) B鑑賞(1)

11 参考資料・参考文献等

- ・授業で使用する資料、関連データ等
(ワークシート、ループリック、評価セッション・パフォーマンスシート、アンケート等の数的資料や分析データ 等)
- ・学習指導案を作成するに当たり、引用したり参考にしたりした資料等
 - ・高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説芸術編
 - ・小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）
 - ・『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道） 他